

2023年度 第二回技術委員会 (合同委員会)

2023年7月5日 (水)

Web開催



主な内容

1. 2023年度技術委員会メンバー
2. 申請状況について
3. WG活動報告
6. その他

技術委員会メンバー

登録会社61社102+α名

株式会社オクト
光明理化学工業株式会社
株式会社JCVケンウッド
新コスモス電機株式会社
株式会社タニタ
中央自動車工業株式会社
東海電子株式会社
株式会社東洋マーク製作所
ドレーゲルジャパン株式会社
NISSHAエフアイエス株式会社
根本特殊化学株式会社
株式会社パーマンコーポレーション
株式会社パイ・アール
フィガロ技研株式会社
前野技研工業株式会社
株式会社ヤナコ計測
アイグッツ株式会社(議事録担当)
あすまる株式会社(次回:議事録担当)
エスケイジャパン株式会社
MIクリエイションズ株式会社

NCY株式会社
株式会社エフェクト
株式会社オウルテック
株式会社オクト
株式会社オムニ
株式会社キングジム
株式会社グロックス
株式会社コムテック
株式会社コンテック
SANKEIプランニング株式会社
鈴与シンワート株式会社
SEIKOIST株式会社
センスエアエービー
(旭化成エレクトロニクス株式会社)
大自工業株式会社
株式会社天時情報システム
株式会社東京企画
株式会社東計電算
株式会社ドウシシャ
トライポッドワークス株式会社
株式会社ドリテック

日本鋭明技術株式会社
株式会社藤田電機製作所
株式会社ユアーショップ
株式会社ユビテック
株式会社ライノプロダクツ
株式会社レッツ・コーポレーション
新東工業株式会社
株式会社SREE
小林薬品株式会社
有限会社ドリームチーム
株式会社イズムシステムインテグレータ
TML株式会社
NHPソリューション株式会社
株式会社セイワ
株式会社ミツバサンコーワ
株式会社SGST
株式会社ファーストシステム
株式会社カスタム
アイリスオーヤマ株式会社
株式会社高昇
エレコム株式会社

(2023/6/16 現在)

今期の取り組みについて

- 外部検定の運用及び新方式の申請対応
- JB10規格英文化対応
- JB20規格運用に向けた対応
- アルコールガスのトレーサビリティ調査
(ドライーウェットガスの相関関係等)

2020年度～2023年度の活動計画(案)

項目	活動内容	2020年度				2021年度				2022年度				2023年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
①自主検定	自主検定合格品有効期限	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
②外部検定	JB10000検定運用	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	JB10001維持審査	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
③規格WG活動	JB20001規格策定	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ISO/TC272対応	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	CERIとの運用協議	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	CERIの設備整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	プレテスト	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	JB20001検定運用	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	Dry-WetGas相関評価/評価機関調査等	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
④ガスWG活動	Wet試料液検討評価(ReCCS)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	義歯安定剤連絡会対応	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
⑤義歯安定剤WG活動	義歯安定剤連絡会対応	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
⑥その他技術的対応	J-BACのHP等からの技術的相談対応	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

■ 作業完了 ■ 作業予定
 ■ 作業追加 ⊠ 未実施

2023年度活動スケジュール

2023年度技術委員会開催予定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
技術委員会	●4/14 第八回定期総会 (Web開催) 第一回			●7月5日 (Web開催) 第二回			●10月4日 第三回				●2月13日 第四回	

- 規格WG
 - 4/26 第一回
 - 5/18 CERI打合せ
 - 6/2 CERI打合せ
 - 6/19 第二回
 - 7/20 第三回(予定)

- ガスWG
 - 第一回検討中

- 義歯安定剤WG
 - 第一回検討中

2022年度外部検定運用

2022年7月1日より新方式での検定運用開始

変更内容: 検定審査会での書類審査を外部機関(CERI様)へ移行

2023年1月以降の申請状況

1月～3月: 新規 4

維持 0

新④、⑤班

特班 : 同一機種申請 0

4月以降の申請状況

4月: 新規 2 維持 3

5月: 新規 3 維持 1

6月: 新規 2 維持 8 同一 3

新班 ⑥～⑧班 特別審査班

今後とも検定審査会(班)の
対応宜しくお願いいたします。

検定審査会グループ

登録会社47社

12グループを予定 申請会社以外に割り振る

①新コスモス電機株式会社(リーダー)

①アイグッツ株式会社

①株式会社アサヒ企画

①あすまる株式会社

②ドレーゲルジャパン株式会社(リーダー)

②MIクリエーションズ株式会社

②エスケイジャパン株式会社

②NCY株式会社

③株式会社パイ・アール(リーダー)

③株式会社エフェクト

③株式会社オウルテック

③株式会社オムニ

④株式会社タニタ(リーダー)

④株式会社キングジム

④株式会社グロックス

④株式会社コムテック

⑤フィガロ技研株式会社(リーダー)

⑤株式会社コンテック

⑤SANKEIプランニング株式会社

⑤株式会社サンクラウド

⑥中央自動車工業株式会(リーダー)

⑥鈴与シンワート株式会社

⑥SEIKOIST株式会社

⑥センスエアエービー

(旭化成エレクトロニクス株式会社)

検定審査会グループ

登録会社44社

12グループを予定 申請会社以外に割り振る

⑦前野技研工業株式会社(リーダー)

⑦大自工業株式会社

⑦株式会社天時情報システム

⑦株式会社東京企画

⑧株式会社パーマンコーポレーション(リーダー)

⑧株式会社東計電算

⑧株式会社ドウシシャ

⑨東海電子株式会社(リーダー)

⑨トライポッドワークス株式会社

⑨株式会社ドリテック

⑩株式会社東洋マーク製作所(リーダー)

⑩日本鋭明技術株式会社

⑩株式会社藤田電機製作所

⑪株式会社JVCケンウッド(リーダー)

⑪株式会社ユアーショップ

⑪株式会社ユビテック

⑫株式会社オクト(リーダー)

⑫株式会社ライノプロダクツ

⑫株式会社レッツ・コーポレーション

**OEM申請、同一機種申請、仕様変更届対応
特別検定審査班**

○光明理化学工業株式会社

○NISSHAエフアイエス株式会社

○根本特殊化学 株式会社

○株式会社ヤナコ計測

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・最終出荷場所について

最終出荷場所が複数箇所ある場合は様式2. の1. 当該機器の製造の【最終試験(出荷)場所】に全て記載し、その関連性を明記する。

この明記事項により【最終試験(出荷)場所】が複数ありとなった場合はすべての場所がサイト監査の対象となる。

- ・取扱説明書について

新規申請: 外部機関の書類審査時に指摘を受け修正を行った場合、現地(サイト)監査までに改版する。

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・各申請、監査、試験の不合格後に関して

現在、上記不合格になった後、外部機関様へ長期間連絡がない企業様が数社おられます。

長期連絡がない状態が続きますと、協会側の台帳と外部機関様の進捗管理が合致しないなどのケースが生じ始めております。

今後の対応として、外部機関様との協議になりますが、

「連絡が2ヶ月ない場合は、中断通知とともに一旦審査等を中断処理し、再開する際には技術委員長まで再開の申請を行う」

と外部機関様と協議、3月、6月に実施。

6月にリマインドの会員企業様がございました。

次回以降はリマインドなく、一旦審査などの中断の連絡を入れます。

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・様式2. ○呼気アルコール検知器 販売ガイドラインに関する規定 No.10 測定範囲(0.000の定義、マスキング範囲)について説明しているか。

本項目に関して、取り扱い説明書に明確に記載されておらず、外部機関様の書類審査合格後、現地(サイト)監査時、もしくは実機試験時に発覚する事例が起きております。

現行申請対応を実施してしまっている会員企業様におかれましては外部機関様の御取り計らいにて次ページの①②の対応を行っていただいておりますが、現在書類審査を実施している会員企業様に対しては、**即座に監査、試験中止とし、書類審査不合格の処理とし、再審査をご希望される場合は、書類審査からの対応になります。**

申請方法の確認・変更について

現行の対応状況

①現地審査でマスキングが判明

現地(サイト)審査で確認して判明。

この日に抜き取る品に付属する取扱説明書はマスキングについて言及していないものであり、現地審査を受ける準備ができていない(最終的な製品となっていない)

→後日再抜き取り(料金発生)

申請方法の確認・変更について

現行の対応状況

②実機試験でマスキングが判明

実機試験で取り扱っているうちにマスキングをしていることが判明。(申請企業様へは確認)

抜き取ってある品に付属する取扱説明書はマスキングについて言及していないものであり、実機試験を受ける準備ができていなかった(最終的な製品となっていなかった)

→後日再抜き取り(料金発生)

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・様式2. ○品質保証体制について

- No.3 監視機器及び測定機器の管理

- (検定制度:2.3.3 監視機器及び測定機器の管理)

本項目に関して、検定制度には「出荷検査に関連する機器や材料の能力条件書を策定しなければならない。」となっております。

検査ガスの点検手順書とは、検査するガスの濃度を確認する手法を手順化したものであり、本当にその濃度なのか確認(=点検)する必要がある。それがなければこのガスが本当にその濃度なのか確認できないので、NGとなる。(=基準器等を介して確認することが必要)

市販品のエタノール溶液使用ならばOK。

(尚、そのメーカー資料の確認は不要)

申請方法の確認・変更について

審査費用改定に関して、

2023年3月に外部機関であるCERI様より審査・監査・試験費用の改定の連絡がありました。

理由等に正当性が見られましたので、本件を受け入れることが幹事会にて決定いたしました。

【改定内容】 改定時期 **2024年1月** 申請分より

・料金変更前

1年目 初回審査 27.5万円
2年目 維持審査(現地)11万円
3年目 維持審査(現地)11万円
4年目 維持審査(現地)11万円
5年目 維持審査(現地)11万円
5年合計 71.5万円

・料金変更後

1年目 初回審査 32.5万円
2年目 維持審査(現地)11.5万円
3年目 維持審査(現地)11.5万円
4年目 維持審査(現地)11.5万円
5年目 維持審査(現地)11.5万円
5年合計 78.5万円

規格WGについて

○ JB10整備、英文化およびJB20, JIS等対応

参加表明メンバー

旭化成エレクトロニクス: 吉田様、清山様

光明: 畑(リーダー)

タニタ: 金成様

東海電子: 杉本様、高木様、植松様

NISSHAエフアイエス: 常深様、柳谷様

根本特殊化学: 三浦様

フィガロ技研: 河口様

ヤナコ計測: 上西様

※ 随時ご興味のある企業様の参加をお待ちしております。

規格WGについて

2023年度第一回技術委員会にて
今後について

- JB10001
 - 電池対応等の規格修正(様式2のHP掲載)
 - NDIR仕様に対する規格対応(試験ガス等)

- JB20001
 - 2023年度夏運用開始への対応
(CERI様との最終運用調整、最終見積入手等)
 - JB20規格の見直し協議
(規格WG実施、CERI様への確認対応)

- ISO化
 - 他機関の調査検討

規格WGについて

JB00, JB10について

- ・ 電池対応等の規格修正(様式2の修正)

J-BACのHP掲載時より運用開始

→ 2023年7月掲載へ

5)	購入後の修理、メンテナンス、校正について説明しているか。
6)	電源電圧変動が性能に影響を与える場合きちんと説明しているか。 電池残量について機器での表示や取説に説明されているか。
7)	呼気の吹きかけ方法について説明しているか。

文書 No:B202304-2

規格WGについて

JB20について

- 2023年度運用開始に向けて
 - CERI様との最終運用調整、最終見積入手
 - JB20のトライアル実施に伴う規格の見直し
(温度試験、流量試験等)
及び電気妨害試験の対応について
- 温度試験について(2022年度第7回WGにて)
 - 試験は恒温槽内で実施する。
 - 試験回数は1回とする。
 - 但し、CERI様に恒温槽内のガスが一定であることを確認頂く。
 - 1回だけの判断で問題がないか。リトライを許容するか。

規格WGについて

CERI様に恒温槽内のガスが一定であることを確認頂く。

- 4月26日 第1回規格WG

CERI様における温度試験手法を議論

○配管を恒温槽に這わして、外の出口で取得する方法

- 長さ最短(入口ー出口間)
- $\phi 8 - \phi 6$ チューブ
- 材質:タイゴンチューブ
- 繰返し回数10回程度
- チューブを毎回パージ処理しない場合と10本交換の場合。
- 流量は規定流量
- 出口のガス温度は不問

規格WGについて

- 4月26日 第1回規格WG(続き)
- 電気妨害の試験の対応
 - 当面①～③のケースの選択制とする
 - ① 全てCERI様に依頼(CERI様から試験を外部に委託OK)
 - ② 第三者機関で試験(妨害試験&精度確認)したエビデンスの提出でOKとする
 - ③ 第三者機関で妨害試験をし、その前後の精度確認のみCERI様で実施精度
- 一方で①、③について全てCERI様で行えるよう打診を行った(第7回WG後)。
- 適切な操作ができるか
 - 手順が示された操作手順書があればハードルは下がる
- 安全性(試験担当者や他の設備)の確認
 - 漏電等のリスクを確実になくす
 - 他の設備への影響(設置検討部屋にNMRがある)がないこと
 - 検討により、試験コストを下げられる。但し導入までの検討を要する。
 - 必要となった時点で、別WGを設置する。

3. 検証結果 (2023.5.31 実施) 温度 (18~20) °C、湿度 (49~52) %RH

通常測定(前) ※単位 : mg/L

回数	測定値
1	0.151
2	0.152

検証 A : チューブをパージ処理せず、10 回繰り返し測定

回数	測定値
1	0.141
2	0.142
3	0.142
4	0.140
5	0.142
6	0.136
7	0.141
8	0.134
9	0.133
10	0.136

通常測定(中)

回数	測定値
1	0.149
2	0.151

検証 B : チューブを都度交換して 10 回繰り返し測定を実施

回数	測定値
1	0.136
2	0.135
3	0.136
4	0.134
5	0.134
6	0.131
7	0.136
8	0.134
9	0.129
10	0.133

通常測定(後)

回数	測定値
1	0.145
2	0.145

5月31日 CERI様試験実施
→ 6月19日第2回WGで議論(後程提示)

規格WGについて

- ・ 5月19日, 6月2日 CERI様打合せ

2.3.1 製品の品質保証体制

【原産国】(初期・維持・更新監査情報として) 原産国表示はあるか?(機器又は書類等)

- ・ 本体に表示するための、生産指示書があり手順は整っている。だが、デモ機であるとのことで抜き取り対象には原産国表示がなかった

J-BACとしてデモ機は申請可能だが、最終製品となった時と同じもので申請する必要があることは会員企業へお伝えしている⇒NG

【最終試験(出荷)場所】(初期・維持・更新監査情報として)

試料(4台)を無作為抽出することができる工程が実在しているか?(準備する在庫数は最低8台)

- ・ 8台が会議室(最終出荷用保管場所ではない)に用意してある、デモ機であるから保管場所は決まっていないとの説明があった

最終製品時と同じ状況を整えてからの申請がルール。保管場所は決まっていないといけない。

規格WGについて

- ・ 5月19日, 6月2日 CERI様打合せ(続き)

2.3.2 識別及びトレーサビリティ

【製品の一意的識別方法】

試料(4台)の対象となる製品は、個体管理ができるよう、製造/出荷に関連する管理(製造)番号等が付与されているか？

- ・ 本体にシリアルを表示するための、生産指示書があり手順は整っている。だが、デモ機であるとのことで抜き取り対象にはシリアル表示がなかった

基本的には仮でもいいのでデモ機でもシリアルナンバーをつけてもらう。

規格WGについて

・ 5月19日, 6月2日 CERI様打合せ(続き)

2.3.3 監視機器及び測定機器の管理

【検査装置、検査ガス概要等】検査設備、検査ガスの点検手順書は存在しているか？

検査ガスの点検手順書とは？⇒検査するガスの濃度を確認する手法を手順化したもの
本当にその濃度なのか確認(=点検)する必要がある。

それがなければこのガスが本当にその濃度なのか確認できないので、NG
市販品のエタノール溶液使用ならば、シミュレータ温度、流量等を確認する
手順(文書)でOK

(市販品はメーカーによりしっかりと製造されているはず。そのメーカー資料の
確認は不要)

自作溶液を使用の場合、出てきたガスそのものの濃度を、基準器等を介して確認する
ことが必要

規格WGについて

・ 5月19日, 6月2日 CERI様打合せ(続き)

2.3.4 製品の監視及び測定

【受入検査及び試験】受け入れ手順に関する書類があるか？

受け入れの手順書にガス検査結果の確認(の明記)は必須？(通電や外観のみの場合あり)

⇒受け入れでは特にガス検査の結果の確認は必須ではない

製造段階で検査はしているはずなので、その結果をもとに受け入れとして紐づけることも受け入れとしてOK

【途中工程の検査及び試験】各工程の検査マニュアルがあるか？

複数回のガス検査がある場合に全ての検査マニュアルの確認は必須？

検査1回の会社もあるのだから、いずれかのプロセスのマニュアルが確認できればOK？

検査マニュアルという形で提示してもらい、説明を求める形で実施したほうが良い

今後見解が一致しない場合には、申請企業様に了承をいただき、提出資料を技術委員長に提示する方向で動く

規格WGについて

・ 5月19日, 6月2日 CERI様打合せ(続き)

2.3.4 製品の監視及び測定

【検査及び最終試験】ガス検査の結果が保持されているか？

結果の記録として数値は必須？(合否の記録だけでもOK)

⇒何をもって合格としたのかがわかれば、必ずしも数値にこだわる必要はない。合否基準がわかったうえでの合否であることが大事。

デモ機は申請可能だが、最終製品と同様の出荷検査を行っていることが必要⇒記録無しはNG。仕様変更届の対応も必要になる

抜き取る製品の記録がない⇒抜き取ったものについてはしっかり記録があるものを提示してもらうことが必要

機密保持の観点から製造委託先所有のマニュアルを開示できないと主張された場合の対応⇒NG

規格WGについて

- ・ 5月19日, 6月2日 CERI様打合せ(続き)

2.3.5 不適合製品の管理

【除去措置】不適合製品の扱いに関する書類はあるか？

【特認(特別採用)措置】特認の扱いを定めた書類はあるか？

【回収措置】回収措置に関する書類はあるか？

回収等の記録の実例を示すだけではNG

ISOの品質マニュアルではフロー体系図を必要とするように、手順を定めた書類が必要

“文書化された手順”と文書化について他の項目よりは強めに記載の意図

⇒一番不確定なところなので、「文書化」を強調している。

文書がないなら作ってもらう指示するという対応をする

規格WGについて

- 5月19日, 6月2日 CERI様打合せ(続き)

その他

平均値評価時においては、下2桁表示品でも5回の平均の際に、計算で下3桁目以下の数字が出るが、それはどう評価するか。

JB20の試験不合格時は、どのような対応か。

現地監査で問題(何も出されない、準備されていない等)が数件あり。

NGモデルを重ねていって、CERIとして現地監査中止等のNGモデルケースを決めたい。

報告書案について(JB20001_報告書案 20210324(最終)(23.01.20修正))の修正

→ 6月19日の第2回規格WGで議論

規格WGについて

▪ 6月19日 第2回規格WG

温度試験トライアルについて

・恒温槽内に入れたタイゴンチューブの長さはどれくらいだったか。

→ 53cm(±1cm)

・シミュレーター濃度について、吹き出し直後の濃度でなく、チューブ後(マウスピース後)のガス濃度が0.15mg/Lになるように濃度調整頂くことは可能か。

→報告書での「通常測定」は室温にて53cm タイゴンチューブで捕集した試験用ガスとなる。そのため先の検証試験は3.の通りで実施したデータとなる

・恒温槽に入れたタイゴンチューブ試験を、室温内で実施した場合での試験を実施頂くことは可能か。(チューブの影響か温度の影響か)

→通常の試験で使っていたチューブと53cmタイゴンチューブでの比較がよい。JB10試験を実施する機会に併せて実施する。

規格WGについて

- 6月19日 第2回規格WG(続き)
その他について
 - 平均値評価時においては、下2桁表示品でも5回の平均の際に、計算で下3桁目以下の数字が出るが、それはどう評価するか。
→ 3桁目はそのままの数値で評価することとする。
 - JB20の試験不合格時は、どのような対応か。
→ JB20では、不合格の試験のみとする。但し、精度試験は必ず実施することとする。
 - 報告書案について(JB20001_報告書案 20210324(最終)(23.01.20修正))の修正
→ JB20本文も含め、再度文書を読み合わせながら修正を実施
- 次回7月21日を予定し、最終文書を作成する。

規格WGについて

今後について

- JB20001 ・ 2023年度夏運用開始への対応
(CERI様からの最終見積入手、規格文書見直し(規格WG実施))
CERI様より今年度中に開始希望有(更新審査を避けるため)
(但し、5月・11月は業務多忙により不可)

→ 上記終了時点で、一旦本WGを終了する。以下は、別途WGを立ち上げ対応とする。

- JB10001 ・ NDIR仕様に対する規格対応
(但し試験見積書については、近日CERI様より提示予定)
- JB20001 ・ 電気妨害の試験のCERI様での一括試験検討
- ISO化 ・ 他機関の調査検討

アルコールガスのトレーサビリティ調査

○ ドライボンベガスとシミュレーター(ウェットガス)の相関関係調査

参加メンバー

光明理化学: 畑様

タニタ: 金成様

東海電子: 杉本様、高木様

NISSHAエフアイエス: 常深様、柳谷様

フィガロ技研: 河口様

根本特殊化学: 三浦

ヤナコ計測: 上西様(リーダー → 本年度から暫定で三浦へ変更)

旭化成エレクトロニクス: 吉田様、清山様

【課題事項】

- ・ウェットガスとドライガスの相関の確認方法の検討
- ・試験実施に向け試験を行っていただける企業の募集
- ・試験対応の為ドライガスの提供方法の検討

改めて、本試験にご参加していただける企業様を募りますので、その際は是非ともご協力願います。

義歯安定剤WGの活動

○ 義歯安定剤連絡会との対応など

参加メンバー

光明理化学：畑様 中央自動車工業：高橋様
NISSHAエフアイエス：常深様、柳谷様
フィガロ技研：河口様(リーダー)
株式会社 ネモト・センサエンジニアリング：三浦

義歯安定剤連絡会の技術委員長に新しく就任された
小林製薬株式会社の倉光様より連絡。

「当連絡会が計画していた内容と類似の試験が徳島大学 市川先生、及び長崎大学 村田先生の論文で報告されました。このことを受けて、連絡会での試験は一旦中止し、本論文内容を基にアルコール検知器協議会様と共通見解を協議させて頂きたいと考えております。」

その他

○ ご報告事項

認定番号付与ミスに関するご報告

この度、申請機器に対して認証番号付与のご連絡時に重複を含む番号の記載ミスが発生したことご報告いたします。

1) 記載ミス事項

2023年4月28日付け、申請会社様へのメール送信において、認定番号の重複を含む記載ミス発生。

2023年5月9日付け、申請企業様からのメール連絡において、記載ミスに関する指摘があり、本件が発覚。

同日付け、修正対応実施。

その他

本件においては、重複を含む記載ミスの番号にて、すでに製品展開、当協議会ホームページへの記載が進んでおり、修正作業等に多大なるご迷惑をおかけいたしました。

再発防止として、下記状況を当協議会幹事会へ報告し、是正対応を行います。

2) 現状の把握

現行、本対応に関しては技術委員長である私が一人で実施し、メールでのやり取りを公として実施している。

人為的ミスが発生する可能性があり、現に今回のミスが発生した。

その他

3) 是正対策

① ダブルチェックなどの検討

現行委員長のみの確認であるが、副委員長への確認依頼を実施し、ダブルチェックの上、申請企業様へ連絡する。

② 幹事会(執行委員会)への確認、承認の検討

現行委員長から認定番号の付与を行っているが、認定番号の付与を幹事会を通して、委員長からの連絡へ変更する。認定機器の台帳を幹事会(執行委員会)へ共有し、幹事会(執行委員会)の確認・承認後、認定番号付与。

上記①②の方法以外にも幹事会(執行委員会)にて対策の協議を実施し、改めて改善策を検討し、実施する。

その他

- 問い合わせ事項の対応は随時実施中
業務委員会 Web/IT班と連携
HPに「よくある問合せ」を整備
- 認定品の調査検討
業務委員会 調査班と連携
認定品が正しく販売されているか調査対象を検討
- 質疑応答

今後の取り組みについて

1. 外部検定の運用の監視
2. JB10002 JB20001の対応
3. アルコールガスのトレーサビリティ調査の推進
4. 義歯安定剤WGの活動の再開
5. 業務委員会様と連携
6. 2024年度以降の活動計画立案
7. その他HP等からの技術的相談対応

まとめ

2023年12月より検知器での白ナンバーの検査義務が始まる旨、パブリックコメントが発布されました。

更に認定品の期待が高まっております。
今後も皆様のご協力宜しくお願いいたします。